

する)を処方したいが、補剤を使うことが多いので処方の機会がなかった。全身倦怠感＝補剤ではない良い例だった。

体重減少(筋肉量低下・サルコペニア)

体重減少・筋肉量低下が診られれば → 十全大補湯
人参養栄湯

体重減少・筋肉量低下に
不眠などの精神症状を伴えば → 人参養栄湯

少しでも体重減少や筋力低下が診られたら十全大補湯や人参養栄湯で治療を開始する。

症例：72歳 男性 胆管がん術後で化学療法中

胆管がん術後で化学療法中の患者さんである。食欲不振が見られたため漢方がんサポート外来に紹介となった。六君子湯1包1×昼後とビタミン剤で加療を開始した。

2週間後の2診：六君子湯で食事は摂れるようになったと喜んで頂けた。

2週間後の3診：食事は摂れるようになったので六君子湯は止めたいと患者さんから申し出があったので終了とした。

3診から1ヵ月後：化学療法センターの看護師から2kg体重が減っていると連絡があり診察を行った。患者さんからは食事は摂取できていると伺ったが、栄養士からは、がん患者さんは健康人より蛋白質を1.5倍摂取するよう指導しているが、そこまで蛋白質を摂取できていないとのことであった。当院の栄養士はがん患者さんに鮭の切り身なら一切れ半食べて、更に卵を食べるよう指導している。

患者さんにとってこの食事量はなかなかクリアできないようである。筋肉の分解を抑制する**人参養栄湯**を服用しましょうと説明し、**人参養栄湯** 1包 1×眠前から治療を開始した。**人参養栄湯**は食欲増進作用もあるのでこの患者さんの場合は良い適用と考えた。

次の診察の際に**人参養栄湯**は3包分 3×毎食後で服薬できるとのことだったので、増量して加療中である。

チーム医療として栄養士と連携で上手く治療できている患者さんである。漢方薬だけでもダメ、食事療法だけでもダメ、両者併用が大切である。医食同源である。

症例：72歳 男性 大腸がん術後で化学療法中

大腸がん術後で化学療法中の患者さん。食欲不振と2kgの体重減少のため紹介された。**六君子湯** 1包 1×昼後、**人参養栄湯** 1包 1×眠前で治療を開始した。

2週間後の2診：食欲が戻りましたと喜ばれたため、同方継続した。

1ヵ月後の2診：経過良好で体重は55kg→57kgに増えていた。

1ヵ月後の3診：経過良好で体重は57kg→61kgになった。

現在加療中。

現代薬の服薬数が多く、食欲不振でただでさえ薬を飲むのもしんどいので、服薬の少ない昼と夜に少量の漢方薬から治療を開始している。**六君子湯**と**人参養栄湯**は両者ともグレリン効果が期待できるので併用した。同じ2包の漢方薬を服用するなら、**六君子湯** 2包より体重減少抑制効果のある**人参養栄湯**を併用した方が良いと考えて処方組んだ。1包の漢方薬で効くのが不思議な気がする。十分量の漢方薬を処方しなければ効かないと思って初めの頃は3包(フル